

ハワイロハキャンプ報告



3月26日〜4月2日の5泊7日、小学4年生〜中学1年生の男女8名とスタッフでハワイ・オアフ島にてキャンプを行いました。カイルキYMC Aがホストとなり、デイキャンプや10代の集い・ファミリービンゴ大会に参加し、ハワイの子どもたちやYMC A周辺に住んでいる方々との交

流の機会を持ちました。子どもたちは、まず「遊び」を通してハワイの友達との交流を深めました。こと全てはわからなくても、「理解しようとする気持ち」と「伝えたいという気持ち」が重なり合っており、短い期間でしたが思い出に残る思い出がありました。また、食事のオーダーやホテルの方に行き先を尋ねたり、おみやげの値段交渉など、連日自分たちの英会話の力試し。「通じて嬉しい」「通じなくてもどかしい」と思っているようになり、もっと英語が話せようという思いが芽生えたようです。



YMC A国際キャンプは、必ず現地でホストとなつてくださるYMC Aがあります。そして、Welcome Friendlyな気持ちで迎え入れてくださ

へ参加者の声 高槻YMC A サッカークラス所属 小馬啓輔さん
僕が、ハワイに行つて、一番印象に残つたのは、ダイアモンドヘッドです。外国人の人と競争して登り、二番目に展望台から山々を見て、一生忘れません。同じく楽しいかっつたのは、ウォーターパークで、流れるプール波のプール・U字型で、垂直に落ちるものなど。僕は、「波乗り」と言つて遊んだりして、すごく楽しかったです。ほかにもマカブー岬やワイキキビーチを見たり、本当におもしろく、行って損はなかったし、また行きたいと思いました。

今年の夏は、「シンガポール・マレーシアキャンプ」が実施されます。(7/31〜8/7) 詳細は東YMC Aまでお問合せください。東YMC A 電話06・6787・3232

連日英会話の力試し YMC A国際キャンプの魅力

YMC Aの野外活動を通して



私がリーダーになったのは、大学生活で何かできることはないかと考えたとき、子どもたちと関わりたいと思い、迷うことなくYMC Aに電話したことがきっかけです。野外活動のメンバーだった頃の思い出といえ、お姉さんのような、先生のような、友達のような、

私は、小学1年生のときから北YMC Aの野外活動に参加してました。月1回の野外プログラムには、4年間一度も休まずに参加することができました。



左側が筆者

川のをせらぎはどんな音でしょうか？一般的にはさらさらと流れる静かな音を想像します。しかし、川のほとりでテント泊をした時、夜更けに聞く川の流れる音は、轟々とした、時には恐怖さえ感じさせます。真つ暗闇の山の中、都会では感じることができなかった本音の音は、静寂を破る音が、まるで居るの不安で、仲間との存在の大切さを気づかせてくれます。また、月や星の輝きの明るさに感動したりします。机上で勉強だけではない「本物体験」は子どもたちに豊かな心と工夫する力を与えます。



自然の中に飛び出し、自然と触れ合う瞬間。優しさと厳しさを併せ持つ自然の中で、あそびを創り出したり、少し背中を押して勇気を与えてくれるのがYMC Aのユースボランティアリーダーです。子どもたちの一番近くでいて、献身的に奉仕するユースリーダーの存在。YMC Aキャンプの魅力は、憧れのリーダーと大自然を舞台に、子どもたちが本来持っている明るさ、勇氣、元氣、優しさが表現される最高の笑顔の時間です。(中村 隆・ウエルネス事業中央部長)

料理を作るのに苦勞、失敗作もまた楽し

私は土佐堀YMC Aの野外活動に参加するようになってもう5年経ちました。現在は中高生クラブに入り、リーダーを意識しながら少しずつ活動するようになっていきました。中学1年の4月、初めて例会に行つたときは友人もおらず、不安をかかえての参加でした。周りのメンバーはずつとYMC Aのメンバーだったので少し疎外感を覚えたような気がします。しかしリーダーをはじめとして少しずつ会話をすることができ、いつの間にか打ち解けることもでき



右端が筆者

ました。毎月のプログラムはもちろんのこと、春夏秋冬の特別プログラムでもかけがえのない友人たちを多く得ることができ、今でも連絡をとった

プログラムでは、グループで野外料理をしたり、広場を走り回って遊んだり、また、キャンプ場で泊まつたりしました。料理を作つたり、テントをたてたりする時には、グループ全員で取り組んで、できた時には友達と一緒に喜びました。また、レクリエーションゲームなどでも、全員で協力しないとできないゲームが多かったです。このような活動は、仲間の大切さや協力することのすばらしさを気づかせてくれたと思います。

キャンプで学んだ、自然を守ることの大切さ

達と一緒に喜びました。また、レクリエーションゲームなどでも、全員で協力しないとできないゲームが多かったです。このような活動は、仲間の大切さや協力することのすばらしさを気づかせてくれたと思います。また、小学3年生からは、鳥取県呼子高原での

うな、大好きだったリーダーとの思い出が一番大きいです。大好きなリーダーと月に一度会うこと、特別な友達とテントで寝ること、山頂でご飯を食べることなど、毎月のYMC Aが楽しみでした。

リーダーとして学んだ、大切な「人」との関わり

方ありませんでした。そんな私がリーダーになって一番驚いたことは、ねらいを立ててプログラムを一から組み立てる段階でスタッフと共にリーダーも深く関わり、多大な時間をかけて準備をしていることです。も

り遊びにいったりしていません。そういった点でもYMC Aには深く感謝しています。しかし、苦勞したことも多くあります。雨の後で火をつけることができなかつたり、信じられなほど柔らかい米粒を食べたり、怪我をしたりもしました。それでも料理をするのも、笑いあひながら失敗作を食べるのも楽しかったです。今思うとそうやって苦勞してきたことも含めて、5年間色々な人に出会い、色々なことを経験できました。YMC Aには本当に感謝しています。これからも楽しく活動していきたいと思っています。

このほかに、冬・春にはスキーキャンプで、スキーを満喫できます。スキー技術ワッペンが①から④まであり、それぞれ上のワッペンがとれるようにがんばつていま

私は今でもYMC Aでした体験はとてたたくさんあり、それを通じて学んだことは数え切れないくらいあると思います。でも、その中で一番大切なことは、自然を守ることだと思っています。自然がなくなれば、呼子にもスキーにも行けなくなるからです。自然の中で過ごす体験は、豊かな気持ちに私に与えてくれていま私に自然を大切にす

私たちは自然体験の希薄化が言われていますが、どんな環境でもアイデアを出して目一杯遊ぶ子どもたちの笑顔に何度も励まされました。今年の春から社会人になり、リーダー生活を振り返るとYMC Aは私にとってとにかく学びの場でした。人との関わりを大切にしているYMC Aで、意識して人との関わりを大切にしようになつたことが多くありました。YMC Aで学んだ人との関わりを大切にすることを、一人前の社会人になつていきたいと思っています。

◆◆プログラム報告◆◆ 紀泉わいわい村 春祭り

開村7年目を迎えた紀泉わいわい村。毎年4月に春祭りを開催することになりました。当日は天候に恵まれ、初夏の陽気となりました。開始時間前に続々と家族でお越しになり、昨年の秋の収穫感謝祭を上回る約2,800人もの方にご参加いただきました。ビザやパウムクレーン体験コーナー、わいわい村産のもち米とよもぎを使った餅つきコーナーは長い行列ができて大人気でした。そして、わいわい村名物、大釜での千人豚汁も大好評でほぼ完売となりました。

踊り華やか、フラダンス



今年もわいわい村無料宿泊券やわいわい村産お米、ビザ・パウムクレーン無料券が当たる大抽選会を行いました。抽選券販売は全額、社会奉仕プログラム等への寄付として捧げさせていただきます。

このほかも地域の方々と共に、この自然豊かで、懐かしく想い、心むら紀泉わいわい村に多くの方が親しんでいただいているようにしていきたいと思っております。(尾崎正敏・紀泉わいわい村スタッフ)

教育講演会

「子どもたちの未来を考える」―家庭・地域の現在から― 講師 大阪大谷大学教授 桜井 智恵子 氏

大阪YMC Aヘルシーキッズデイのプログラムとして、ウエルネス南ブロックで4月26日「子ども未来を考える」というテーマで桜井先生をお招きし、堺市立青少年センターと堺市立青少年の家において講演会を開催いたしました。今回このようなテーマを設定した背景には、どの地域においても自力で解決できない家庭の問題が山積みであり、各教育機関においても行き詰まり感に陥っている状況を確認し、何が一番大きな問題となっているのか、堺地域でも検討してみることがあると感じたからです。



鎌田實講演会

『あつたかさ』は人と人との繋がりに

4月17日に大阪YMC A会館ホールにおいて、大阪YMC A主催・大阪YMC A賛助会共催で創立125周年記念事業の継続事業として鎌田實講演会が開催され、約500名の方にご参加いただきました。講演会では、鎌田先生ご自身、小さい頃からの『あつたかさ』を感じながら生きてこられた『あつたかさ』を大切にすることを実践されてきたという話をされました。また、『あつたかさ』を支えているものは、人と人との繋がりにあると話しておられました。現代社会においては、人と繋がることを嫌がる風潮があったり、自分の関

ご寄付

次の方々よりご寄付いただきました。感謝をもってご報告させていただきます。表現・コミュニケーション学科(大阪YMC A国際専門学校高等課程)の2008年度卒業生保護者一同様から、学校備品購入のために81,000円のご寄付をいただきました。ワイズメンズクラブ国際協会中西部から、大阪YMC Aの日本語学校に通う留学生のために、984,000円をご寄付いただきました。